

米沢興譲館同窓会会報

第41号

発行／平成24年8月1日
米沢興譲館同窓会会報編集委員会

当会報の題字は、第19号から奥山徹石氏(平成28年卒)の揮毫によるものです。



興福会(昭29年卒) 喜寿記念植樹

平成23年11月10日 興譲館高等学校 惠索の森

ごあいさつ



平成24年度 同窓会総会・懇親会

実行委員長 宮坂

(昭和52年卒)

宏

同窓生の皆さまいかがお過ごしでしょうか。今年もまもなく興譲館同窓会の懇親会の時期がやって参ります。毎年千人近い参加者で行われる、全国でも希有なこの大懇親会ですが、今年度は初の試みとして、9月19日の母校の創立記念日と切り離し、9月14日(金)の開催となりました。地元を離れ全国で活躍している仲間たちや、若い世代の方々からの「週末の開催だと出席しやすい」という要望に応えたものです。開催日変更については、同窓会の役員会や我々懇親会実行委員会メンバー間でも賛否が分かれました。しかし最後は、大友同窓会会长や若いメンバーの後押しを受け、一人でも多くの仲間が参加できる環境をつくってみようという思いが一つになり、日程変更の運びとなりました。どうかご理解、ご容認賜りますよう伏してお願い申し上げます。

つきましては、皆さま日々多忙な時間を過ごされているとは思いますが、一人でも多くの仲間と再会できますようにお声掛けいただきますようお願い申し上げます。当日は、いつの間にか幼な顔に戻つて「先輩、こいつ、俺、おまえ」で話しが盛り上がり、そして何年ぶりかで会う仲間との邂逅も待つていてることと思います。よく同窓会は「若返りの奇跡の場所」とか、「エネルギーの泉」などとおっしゃる方がおりますが、是非そんなパワーを享受できる懇親会にしたいと考えております。我々実行委員会メンバーは大懇親会に向けて、ちやくちやくと準備を進めておりますが、特に今年度は61年卒、平成4年卒、9年卒の若手の活躍が目立ちます。当人は楽しい懇親会になるよう実行員会一同、精一杯頑張りますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

母校を愛し、同窓会の隆盛に平成十六年から八年間同窓会長としてご指導いただいた高野謙氏から大友恒則氏に任務が引き継がれました。

「同窓生の同窓意識の低迷の打破と、混迷する世相の今日においてこそ我々の興譲館精神が發揮されるべき」と語る新会長と共に、活気ある同窓会づくりに努力していきましょう。

高野会長の後を

引き継ぐものとして



新会長の大友恒則
興譲館の年表によれば、昭和二十四年に同窓会が復活し、会長に高橋與市氏が就任。その後昭和四十九年に仁科五郎氏、昭和五十五年に酒井巖氏、昭和六十二年に高野謙先生が就任なされました。

ちよつと振り返つてみましたが、このたび不肖も顧みず静々たる先輩方の流れを引き継ぎさせていただきましたことになりました。学校にとりましても同窓会にとりましても大切な時期に会長

同窓会長 大友恒則

新会長の大友恒則
興譲館の年表によれば、昭和二十四年に同窓会が復活し、会長に高橋與市氏が就任。その後昭和四十九年に仁科五郎氏、昭和五十五年に酒井巖氏、昭和六十二年に高野謙先生が就任なされました。

一方で、本校の校長を最後に退職なされた大谷昭男先生は、前校長として同窓会報二五号に「まぶしいほど美しい生徒の姿に接して」という題で寄稿して下さっています。先生の玉稿に接し、自分達の学生時代を振り返つて見れば、私達もお話をいたいた先生方や同窓生の方々にこのような温かい思いを受けて素晴らしい学生生活がおくれたんだなと思うと同時に、在校生にとって同窓会はどうあるべきかも教えていただいた気がします。

二つの新規事業について

校長 佐藤広明

今年度からそれぞれ五年間の

指定を受けることになった二つの新規事業についてお知らせします。

一つは文部科学省の「スマサイエンスハイスクール（SSH）事業」の研究開発校として、もう一つは県の「山形の未来をリードする人材育成事業」の進学指導重点校としての選定を受けました。

SSH事業は、平成十四年度に始まったもので、その目的は、先進的な理数系教育を通して将来的な科学技術関係人材を育成することです。

本校はその最初の時にも指定され、理数科を中心とした「科学する心の育成」を掲げ、「生涯にわたって科学的に思考し、創意工夫する力を育むための教育課程及び研究方法の開発」に取り組んで成果を上げて

それでもう一つ、かつて私が同窓会総会・懇親会実行委員長の任に在った時のスローガンは「敬愛」（先輩には敬意を、後輩には愛を）と決めました。今も

協力を頼りにしてご挨拶とさせていただきます。

この言葉は同窓会の柱の一本と考えています。

会員各位には今まで同様のご協力を頼りにしてご挨拶とさせていただきます。

もう一つの「山形の未来をリードする人材育成事業」というのは、県教育委員会が本県学

校教育の現状や大学進学状況等を踏まえ、義務教育とも連携しながら、高校の学力向上と難関大学や医学部への進学増などを通して、本県の未来を担う人材を育てる目的とするものです。

本校が今回取り組むのは、「科学好きの裾野を広げ、科学技術系人材を育て、その先に未だ大学合格実人数が一四〇名と入学定員のちょうど七〇%で、希望者も対象とし、講演会等は全生徒を対象に実施することになりますが、R1 KEJO-KOJO講座など関係事業のいくつかは二、三年生の希望者も対象とし、講演会等は全生徒を対象に実施することになります。

SSH事業への取り組みを通して校内がさらに知的に活気づき、生徒は優れた資質に磨きをかけ、教師は指導力を高めて、「興譲館精神」を胸に世界で地域で活躍する人材を育て、ゆくゆくはノーベル賞受賞者を出す、そういう夢を持つて推進していくことを願っています。



現役合格率は県内トップでした
が、しかし、いわゆる国立私立
の難関大学や医学科への進学希望に十分応えきれていないとい
うのが今の課題です。

本校は、今回、県内兼学校九

校の一つとして進学指導重点校に指定され、地域のベース校として数学と英語の教科指導アドバイザーが配置されました。今後、英・数を中心として、生徒の学力と教師の教育指導力を高めるための事業が、県教委と連携して展開されることになります。

以上、冗長な報告になってしまったが、事業のどこかの場面で同窓生の皆様のお力を

借りることがあるかもしれません。その時には、母校後輩のためにお力添えをよろしくお願ひいたします。

「米沢興譲館」という名前が、

在校生や同窓生にとって誇らしい学校であり続けるために懸命に努めてまいりますので、同窓生の皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

同窓会の活性化に

ホームページページを!

常任理事 H.P.運営委員会 鈴木 基

数多くの生徒が興譲館の歴史と伝統を築き、そして果立ちは、それが色々な分野で活躍している。同窓会HPを開設して四年間、新聞雑誌などに取り上げられた同窓生を紹介してきたが、その記事を振り返り、あら

ためて米沢興譲館同窓生の活躍に驚かされる。米沢で、山形で、そして国内外で活躍されている同窓生の人となりを知ると

ユニークな活動をしている小野川温泉の遠藤直人君(H.6卒)がいる。是非、パソコンを開き「米沢興譲館同窓会」と入力しHPで同窓生の活躍をご覧いただきたい。

一、日 時 平成二十四年九月十四日(金曜日)
一、会 場 グランドホクヨウ(市内金池二丁目)
一、日 程 ①総 会 午後五時
②大懇親会 午後六時半

米沢興譲館同窓会

会長

大 友 恒 則

平成二十四年度同窓会総会・懇親会実行委員長
宮 坂 宏
(昭和五十二年卒)

さて過日、大友新体制における本年度初の同窓会役員会が行われ今後の会運営について協議がなされた。どの同窓会においても、会に対する若い会員の関心の薄さが問題になっているようだが、本会も例外ではない。諸行事への参加率、会費納入状況どれをとっても低いのが現状である。人生の中で何事にも一生懸命取り組み、多くのことを吸収する時期に同窓会に関心を持つというのには酷かもしれないが同じ学舎で青春を過ごした先輩・後輩との出会いを大切にしてほしい。在校生にとって若い

同窓生からの一言は先輩からの大きな励ましや指標になる。新体制のもと、若い同窓生が参加しやすい企画を検討している。是非、同窓会への積極的な参加を期待したい。パソコンの世界では国内はもとよりイギリス、アメリカ、オーストラリア、中国、インド、タイなどに住む同窓生から一ヶ月に約2000名のアクセスがある。同窓会の紹介は連続と続く。HPで同窓生を紹介していくことによって少しでも同窓会への関心が高まることがつながれば幸いである。また積極的な情報提供も待つて



松野良寅先生・青木朗氏を悼む

高野 譲

この三月、本同窓会にとつて忘れることができないお二人が、相次いでお亡くなりになりました。

六日には、本会顧問の青木朗氏（昭和十二年卒）、十二日には元会長の松野良寅先生（昭和十九年卒）が鬼籍に入られたのであります。お二人のご功績について

は、既に皆様よくご存知のことですが、改めてその一端を振り返ります。

松野先生は、昭和六十二年に、酒井巖前会長の後を繼がれ、四期八年にわたって会長を務められました。

ちょうど、母校が関東町から

現在の箕野の地に校舎が移転し、新しい

時代の再出発をした時期に当たります。

前年には、母

校創立百周年記念事業があり、興譲館の歴史を詳細に記した「興譲館世紀」、そ

してエピソードを紹介した肩のこらない読物である「興譲館夜話」

同窓会総会で教えた子にかこまれる松野先生



が刊行されました

した。そのどちらも松野先生の高い識見と豊かな教義に裏打ちされた名著ですが、全て先生が一人で書かれたものです。その後、平成十年の藩学創設三百

年記念事業の際にも、退任され

た後ですが、「興譲館人國記」を

執筆されました。

一方、青木朗氏は、本会の顧問として何かあることに、特に資金面では実に多大のご援助を戴きました。

近年では、母校思案の森に立派な東屋を寄贈されました。樹木が整備されたこの場所をご覧になつた青木氏は、何か想いの場にふさわしい施設が必要だろうと、すぐこの東屋を寄贈されたのです。

国际的財産保護協会の日本部会常務理事及び副会長として、講堂を建設する際にも多額のご寄付をされました。同講堂の竣工式の前日にお越しになつた時には、同窓会室に飾つてあった青木氏の写真（だいぶ前に母校に寄贈された、深い樹林を撮ったもの）をご覧になり、

これは古いから新しいものに替えた方がいいと、早速会社に連絡され、現在掲げてある山並みの写真をわざわざ東京から届けさせ、竣工式当日に間に合わされたというエピソードがあります。

このように青木氏は、本職の



特許事務所のお仕事をされたかたわら、趣味の写真でも本格的な活動をなされ、英國王立写真協会の終身名譽会員という榮誉を受けておられました。

去る四月九日には、ホテルオークラでお別れの会が催されました。

一方、青木朗氏は、本会の顧問として何かあることに、特に資金面では実に多大のご援助を戴きました。近年では、母校思案の森に立派な東屋を寄贈されました。樹木が整備されたこの場所をご覧になつた青木氏は、何か想いの場にふさわしい施設が必要だろうと、すぐこの東屋を寄贈されたのです。

国际的財産保護協会の日本部会常務理事及び副会長として、講堂を建設する際にも多額のご寄付をされました。同講堂の竣工式の前日にお越しになつた時には、同窓会室に飾つてあった青木氏の写真（だいぶ前に母校に寄贈された、深い樹林を撮ったもの）をご覧になり、

これは古いから新しいものに替えた方がいいと、早速会社に連絡され、現在掲げてある山並みの写真をわざわざ東京から届けさせ、竣工式当日に間に合わされたというエピソードがあります。

このようなお二人のご他界は、同窓会にとって大きな損失ですが、皆様と共に二人のご冥福をお祈りし、これまでのご恩を忘れず、同窓会の今後の発展のために、私どももそれぞれの力を出し合って行きたいものと存じます。





支部だより

山形支部

支部長 堤 孝 雄
(昭和34年卒)



さて、「同窓生」の言葉には不思議な響き、なつかしさがあります。山形では「興譲館出身」というだけですぐ親しくなり、会合に誘い込んでいます。「新年会」、「桜花会」、「納涼会」、「芋煮会」等四季折々に集まっては飲んでいます。若いも若きも皆青年になって、喜びを満喫し、あります。

ただ今「納涼ビールを飲む会」(案内状掲載)の準備中です。

総会並懇親会」を実施致しました。本部より同窓会長大友恒則様と学校長佐藤広明様のご臨席を戴き感謝申し上げます。

昨年度は十一月に「第二十五回

私ども山形支部は一九八七年八月に誕生しました。二十五年前の今頃ですが、発起人会、第一回設立総会が昨日のように思い出されます。山形市と周辺市町に住む会員は支部の名簿によれば五五〇人ほどです。毎年十一月の総会と有志による四季折々の集まりを催しています。

昨年度は十一月に「第二十五回

校長先生からは生徒の進路、部活動など後輩たちの活躍や先生方の熱心なご指導をうかがいました。また、「皆川勝雄君について」という演題で、前会長の高野謙様よりご講演を戴きました。さすが三年間野球部員として共に活躍されただけあり、内容が濃く、大変興味深く拝聴することが出来ました。会員七十余名の参加でしたが、ご来賓を含め、全員同窓

生として、懇親会は和気藹々とに行きやかな会場となりました。

支部の運営の費用は総会出席者の会費と欠席の方から頂く送金でまかないます。

さて、「同窓生」の言葉には不思議な響き、なつかしさがあります。

山形では「興譲館出身」というだけですぐ親しくなり、

会合に誘い込んでいます。

「新

2回目の幹事学年で 思うこと

新野 勝
(平成4年卒)

平成4年3月卒業の私たちには、今回2回目の当番学年を担当しています。前回当番学年からの5年間には東日本大震災という未曾有の震災もあり、政治の不安定さもあいまって将来に対する不安が大きいものとなっています。「第二次ベビーブーム世代、団塊ジュニア世代」と形容される私たちはいずれ社会を引っ張つていかなければならない立場であることを自覚し、不安の大きいこの時代に強いリーダーシップを發揮していくなくてはなりません。

さて、そのようなことを言つてはみても、困難な時代であることは間違ひありません。過度なストレスにさらされた孤独な社会を生き抜くためには、心の

奥譲館を母校に持つ縁に感謝するとともに、母校米沢興譲館高校の益々の発展をお祈り申し上げます。

学年だより



いえば大きさかもしれません。同じ青春を過ごした仲間や同志の先輩後輩とともに何か一つのことを作り上げるということを、これもまた心の揺り所です。幹事学年当番制度という、先輩から期せずして与えられた役目をこれから大事にしていきたいと考えています。

人ととの断つことの出来ない結びつきが「絆」です。幹事学年を受けるにあたり連絡の取れない同級生がいることも確かに、「絆」を大事にする気持ちを熱く持ち続けたいと思いま

す。

もし山形周辺においての節はここに記させていただいた何かの会に遭遇するかも知れません。過度なストレスにさらされた孤独な社会を生き抜くためには、心の

奥譲館を母校に持つ縁に感謝するとともに、母校米沢興譲館高校の益々の発展をお祈り申し上げます。

源泉が「米沢興譲館同窓会」と

◎平成22年度 同窓会会計決算書 (会計年度 平成22年9月1日～平成23年8月31日)

収入の部

項目	予算額	収入額	増減(△)	備考
継越金	961,055	961,055	0	前年度継越金
入会金	1,358,000	1,337,000	△ 21,000	7,000円×191名
年会費	2,300,000	1,500,000	△ 800,000	
通年度会費	0	400,000	400,000	昭和46・47・54・55年卒
雑 収 入	945	3,257	2,312	預金利子・興譲館本売上、寄付
計	4,620,000	4,201,312	△ 418,688	

支出の部

項目	予算額	収入額	残額	備考
運営費	1,260,000	1,087,292	172,708	
会議費	100,000	98,083	1,917	理事会等
通信連絡費	50,000	15,174	34,826	郵便切手・ハガキ・コピー代
需用費	180,000	119,290	60,710	慶弔・事務用品・電
人件費	930,000	854,745	75,255	人件費会計へ繰出し
事業費	2,515,000	1,517,065	997,935	
一般事業費	2,000,000	1,019,336	980,664	各支部総会(旅費・お祝い)・高鍋高校交流事業・会報送付料補助・総会補助金
卒業記念費	200,000	182,479	17,521	記念品代(191名分)
表彰費	15,000	15,250	△ 250	永年勤続者(1名)
会報費	300,000	300,000	0	会報第40号7,000部
予備費	845,000	0	845,000	
予備費	845,000	0	845,000	
計	4,620,000	2,604,357	2,015,643	

窓会支部役員

◇高畠支部

支 部 長 登坂 捷一
〒992-0351 山形県東置賜郡高畠町高畠2152-23

☎0238-52-0017

副支部長 梅津伊兵衛 星 寛治
幹 事 長 鈴木 征治
事務局長 金田 康成

◇赤湯支部

支 部 長 佐藤 有弘
〒999-2231 山形県南陽市二色根373

☎0238-43-6660

副支部長 石岡 忠一 須藤 清市
事務局長 三ヶ山岩男

◇宮内支部

支 部 長 山水 克美
〒992-0472 山形県南陽市宮内3172

☎0238-47-7055

副支部長 長谷川 剛 高岡 亮一
事務局長 橋口 一志

◇小国支部

支 部 長 高橋 清人
〒999-1353 山形県西置賜郡小国町
大字兵庫館2-3-14

☎0238-62-2714

副支部長 伊藤 通芳 小林新太郎
事務局長 高野 健人

◇長井・西置賜支部

支 部 長 松下鉄三郎
〒993-0007 山形県長井市本町1-9-27-3

☎0238-88-2538

副支部長 井上 俊雄 芳賀 康雄
代表幹事 渡部 秀一
事務局長 斎藤 道郎

◇県庁・教育委員会支部

支 部 長 相田 信
〒990-2332 山形県山形市飯田3-7-3-8

☎023-534-5680

副支部長 渡部 慶蔵
幹 事 長 若月 雅博

◇校内同窓会役員

理 事 五十嵐文彦 石黒 宏治
幹 事 伊藤 孝 我妻 盛雄 船山 洋子

◎平成23年度 事業計画

- | | |
|---------------|-----------------|
| ①母校振興発展に必要な事業 | ②会員の親睦に関する事項 |
| ③会報の発刊 | ④その他、目的達成に必要な事項 |

◎平成23年度 同窓会会計予算書 (会計年度 平成23年9月1日～平成24年8月31日)

収入の部

項目	本年度予算額	前年度収入額	増減(△)	備考
総 越 金	1,596,955	961,055	635,900	前年度総越金
入 会 金	1,393,000	1,358,000	35,000	7,000円×199名
年 会 費	2,300,000	2,300,000	0	昭38～平14年まで5万円(40学年)、昭28年～37年まで3万円(10学年)
雑 収 入	1,045	945	100	預金利子
計	5,291,000	4,620,000	671,000	

支出の部

項目	予 算 額	収 入 額	残 額	備 考
運 営 費	1,280,000	1,260,000	20,000	
会 議 費	120,000	100,000	20,000	理事会等
通信通話費	50,000	50,000	0	郵便切手
需 用 費	180,000	180,000	0	慶弔・事務用品
人 件 費	930,000	930,000	0	人件費等880,000+50,000(9月手当)
事 業 費	2,635,250	2,515,000	120,250	
一般事業費	2,120,000	2,000,000	120,000	各支部総会、高齢高校交換事業、会報送付料補助、HP運営費等
事業記念費	200,000	200,000	0	記念品代(199名分)
表 彰 費	15,250	15,000	250	永年勤続者(1名)
会 報 費	300,000	300,000	0	印刷費
貯 安 金	500,000	0	500,000	
貯 安 金	500,000	0	500,000	将来の収入不足や支出増加に備える準備金
予 備 費	875,750	845,000	30,750	
予 備 費	875,750	845,000	30,750	
計	5,291,000	4,620,000	671,000	

米沢興譲館同窓会

○本 部

会 長	大友 恒則	小林 捷二	中條 淳子
副 会 長	早川 正信	江部 寛	土田 一成
監 事	野口 義人		
常務理事	遠藤 岩根		
常任理事	小野 隆夫	平山孫兵衛	小嶋彌左衛門
	渡辺 節子	佐野 隆一	鈴木 基
	加藤 英樹	藤倉万里子	益子 光子
	佐藤 詠一	安部 徳朗	

◇米沢支部

支 部 長	早川 正信	〒992-0054 山形県米沢市城西3-2-36
		☎0238-22-6780
副支部長	菅野 武巳	
監 事	安達 治雄	安田 道隆
幹 事 長	相田 修一	
事務局長	栗林 雄二	

◇東京支部

支 部 長	神野 民夫	〒187-0044 東京都小平市喜平町3-2-2-506
		☎042-321-8047
副支部長	吉田 仁志	
幹 事 長	宮坂 孝夫	

◇関西支部

支 部 長	吉田 真	〒606-8075 京都市左京区修学院坪江町2-5
		☎075-721-1743
副支部長	佐藤 吉憲	
監 事	安達 治雄	安田 道隆
幹 事 長	佐藤 和栄	

◇宮城支部

支 部 長	塚原 保夫	〒981-0862 宮城県仙台市青葉区中山5-7-33
		☎022-278-3063
副支部長	和田美知子	御供 政敏
幹 事	小林 令児	矢尾板範子
	小関 隆久	高木 三男
	加藤 啓二	高橋 義彦
	山水 忍	鈴木 利実
事務局長	安部 雅人	

◇山形支部

支 部 長	堤 孝雄	〒990-2091 山形県山形市末広町9-8
		☎023-624-0466
副支部長	後藤 寛	
幹 事 長	生龟 寿子	
幹 事	高橋 宏一	横井 洋子
	浅間 幸助	加藤 章
監 事	岩沼 甫	大内 勇

2度目のSSH指定

SSH推進委員会事務局長 熊坂克

- (1) 校へのSSH事業の取り組みの発信が不十分であった。
- (2) 英語力の重要性や国際化を意識させるような事業が不十分であった。

本年度、我校は文部科学省より平成28年度までの5年間、スバーサイエンスハイスクール（以下、SSHと略す）の指定を受けた。国家的な事業であるSSH指定は、未来を担う科学技術系人材を育てるなどをねらいとし、理数系教育の充実を行った。かかる取り組みである。

平成14年度（SSH事業開始初年度）、文部科学省は全国で26校をSSHとして3か年の指定を行った。その中の一つであった本校は、学校設置教科が受講できる等の制度構築も進んだ。

そのような中、今回のSSH指定により、前回指定時の課題を踏まえながら、さらに発展させた取り組みを実施していく予定だ。

前回のSSH指定時の課題としてあげられた主なものは次の通りである。

(1) 地域や他校、とりわけ中学

研究機関と連携を図りながら体験的な実験講座や演習、企業訪問研修等を行うものである。低学年の段階で様々な分野を「自然科学」の切り口で学ぶことにより、自然科学に対する興味・関心が増大し、あわせて科学技術リテラシーの涵養を促す取り組みとなる。この事業を通して学校設定教科・科目「異分野融合サイエンス」を開拓する。これは、全教科が協働することを活用した事業を継続するなど、「科学する心」をつないだ。また、平成19年3月には、山形大学工学部と高大融合協定を締結し、大学の講義を本校生が受講できる等の制度構築も進んだ。

また、下表（平成23年度本校生を対象とした調査結果）に示したように、幼少期の科学実験教室への参加経験の有無が、高校選択での科・系選択（進路選択）に大きく関係してくることにもわかった。したがって、あって、小中学生に向けた体験型の科学実験教室を実践することで、地域との連携とあわせて科学の裾野を広げる取り組みを進めしていく。

さらに、これら低学年時の学びによって、科学の面白さや奥深さに気づき、そのような学問をさらに深く学んでいきたいと

	参加あり	参加なし	参加%	有意差
普通科文系	16	123	11.5	※
普通科理系	21	102	17.1	
理 数 科	19	56	25.3	※
総 計	56	281	16.6	

小学生時代の科学実験教室への参加経験の有無と高校における科・系選択の関係 ※：p<0.05 (χ^2 検定)

日本の将来を担うサイエンスインベーダー育成

異分野融合サイエンスとフィールドワーク研修
(科学の裾野を広げる)(センス・オブ・ワンダーワーク)